

四 半 期 報 告 書

(第 5 期第 1 四半期)

自 2019年 4 月 1 日
至 2019年 6 月 30 日

東京電力パワーグリッド株式会社

E 3 2 2 1 5

本書は、E D I N E T (Electronic Disclosure for Investors' NETwork) システムを利用して金融庁に提出した四半期報告書のデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。

目次

頁

【表紙】		
第一部	【企業情報】	1
第1	【企業の概況】	1
1	【主要な経営指標等の推移】	1
2	【事業の内容】	2
第2	【事業の状況】	3
1	【事業等のリスク】	3
2	【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	3
3	【経営上の重要な契約等】	5
第3	【提出会社の状況】	6
1	【株式等の状況】	6
2	【役員の状況】	7
第4	【経理の状況】	8
1	【四半期連結財務諸表】	9
(1)	【四半期連結貸借対照表】	9
(2)	【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】	10
	【四半期連結損益計算書】	10
	【四半期連結包括利益計算書】	11
2	【その他】	14
第二部	【提出会社の保証会社等の情報】	15
[四半期レビュー報告書]		

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第2項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2019年8月9日
【四半期会計期間】	第5期第1四半期（自 2019年4月1日 至 2019年6月30日）
【会社名】	東京電力パワーグリッド株式会社
【英訳名】	TEPCO Power Grid, Incorporated
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 金子 禎則
【本店の所在の場所】	東京都千代田区内幸町一丁目1番3号
【電話番号】	03（6373）1111（大代表）
【事務連絡者氏名】	業務統括室経理グループマネージャー 門田 文秀
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区内幸町一丁目1番3号
【電話番号】	03（6373）1111（大代表）
【事務連絡者氏名】	業務統括室経理グループマネージャー 門田 文秀
【縦覧に供する場所】	該当事項なし。

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第4期 第1四半期 連結累計期間	第5期 第1四半期 連結累計期間	第4期
会計期間	2018年4月1日から 2018年6月30日まで	2019年4月1日から 2019年6月30日まで	2018年4月1日から 2019年3月31日まで
売上高 (百万円)	393,059	412,318	1,788,910
経常利益 (百万円)	38,782	42,617	113,948
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	33,122	30,751	84,924
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	32,971	29,385	82,083
純資産額 (百万円)	1,012,259	1,005,138	1,061,371
総資産額 (百万円)	5,231,163	5,503,096	5,565,751
1株当たり四半期(当期)純利 益 (円)	710.79	659.91	1,822.40
潜在株式調整後1株当たり四半 期(当期)純利益 (円)	707.68	656.68	1,808.78
自己資本比率 (%)	19.3	18.2	19.0

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していない。

2. 売上高には、消費税等は含まれていない。

2 【事業の内容】

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、当社、子会社7社及び関連会社11社（2019年6月30日現在）で構成され、電気事業を中心とする事業を行っている。

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが営む事業の内容について、重要な変更はない。また、主要な関係会社に異動はない。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはない。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はない。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 財政状態及び経営成績の状況

① 財政状態

当第1四半期連結会計期間の資産は、前連結会計年度末に比べ626億円減少し、5兆5,030億円となった。これは、関係会社短期債権が減少したことなどによるものである。

当第1四半期連結会計期間の負債は、前連結会計年度末に比べ64億円減少し、4兆4,979億円となった。これは、関係会社短期債務の減少などによるものである。

当第1四半期連結会計期間の純資産は、前連結会計年度末に比べ562億円減少し、1兆51億円となった。これは、配当金の支払いなどによるものである。この結果、自己資本比率は18.2%と前連結会計年度末に比べ0.8ポイント低下した。

② 経営成績

当第1四半期連結累計期間の託送収入は、エリア需要の増加などから、前年同四半期比1.2%増の3,519億円となった。これに電気事業雑収益などを加えた売上高は同4.9%増の4,123億円、経常収益は同4.9%増の4,161億円となった。

一方、当第1四半期連結累計期間の経常費用は、委託費の増加などにより、前年同四半期比4.4%増の3,734億円となった。

この結果、当第1四半期連結累計期間の経常利益は、前年同四半期比9.9%増の426億円となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は同7.2%減の307億円となった。

なお、当社グループは単一セグメントであるため、セグメント毎の記載をしていない。

(2) 経営方針・経営戦略等

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はない。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した課題はない。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した課題について重要な変更はない。

(4) 研究開発活動

当社グループの研究開発活動は、主として「コスト削減のためのイノベーション」、「エネルギーサービスの高度化」、「リスク対応の強化」及び「次世代に向けたシーズ技術の開拓」を注力領域として実施している。

当第1四半期連結累計期間の研究開発費の総額は、1,537百万円である。

なお、当社グループは単一セグメントであるため、セグメント毎の記載をしていない。

(5) 生産及び販売の実績

当社グループは、主に送配電に関する電気事業が連結会社の事業の大半を占めており、また、電気事業以外の製品・サービスは多種多様であり、受注生産形態をとらない製品も少なくないため、生産及び販売の実績については、電気事業のみを記載している。

なお、送配電に関する電気事業については、当社供給区域需要を四半期ごとに比較すると、冷暖房需要によって増加する第2四半期・第4四半期と比べて、第1四半期・第3四半期は相対的に低水準となる特徴がある。

① 託送収入実績

種別	2019年度第1四半期 (百万円)	前年同四半期比 (%)
託送収益	351,976	101.2

② 当社供給区域使用端電力量実績

種別	2019年度第1四半期 (百万kWh)	前年同四半期比 (%)
使用端電力量	62,253	100.7

(6) 設備の状況

前連結会計年度末において計画中であった主要な設備の新設、除却等について、当第1四半期連結累計期間に重要な変更はない。また、当第1四半期連結累計期間に新たに確定した主要な設備の新設、除却等の計画はない。

なお、前連結会計年度末における設備の新設等の計画の当第1四半期連結累計期間の完了分は、次のとおりである。

(送電設備)

件名	電圧 (kV)	亘長 (km)	着工	運転開始
G3060006アクセス線 (仮称) 新設	275	6	2017年1月	2019年4月
新宿城南線ケーブル張替	275	5.4	2017年11月	2019年4月 (3番線)

(注) 新宿城南線は3番線のケーブル張替の完了であり、今後2番線については2020年4月の完了を予定している。

3 【経営上の重要な契約等】

該当事項なし。

なお、当社は2017年度において、下記のとおり廃炉等負担金に係る契約「福島第一原子力発電所の廃炉等に係る費用に関する負担契約書」を締結している。

契約締結先	内容	契約締結日	契約期間
東京電力ホールディングス株式会社	廃炉事業のための資金の支払	2018年3月30日	2018年3月30日から 2027年3月31日まで 以後1年ごとの自動更新

(注) 東京電力ホールディングス株式会社からの通知書に基づき、2018年度の廃炉等負担金として1,408億円を計上。なお、2019年度の廃炉等負担金については、当第1四半期連結累計期間には計上していない。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	46,600,100
計	46,600,100

②【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (2019年6月30日)	提出日現在発行数(株) (2019年8月9日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	46,600,100	46,600,100	非上場	(注1、2)
計	46,600,100	46,600,100	—	—

(注) 1. 当社の株式を譲渡により取得するには、株主総会の承認を要する旨定款に定めている。

2. 当社は、単元株制度は採用していない。

(2)【新株予約権等の状況】

①【ストックオプション制度の内容】

該当事項なし。

②【その他の新株予約権等の状況】

該当事項なし。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項なし。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数 増減数(株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増減額 (百万円)	資本準備金残 高(百万円)
2019年4月1日 ～ 2019年6月30日	—	46,600,100	—	80,000	—	20,000

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はない。

(6) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

2019年6月30日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	—	—	—
完全議決権株式 (その他)	普通株式 46,600,100	46,600,100	—
単元未満株式	—	—	—
発行済株式総数	46,600,100	—	—
総株主の議決権	—	46,600,100	—

② 【自己株式等】

該当事項なし。

2 【役員の状況】

該当事項なし。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に準拠し「電気事業会計規則」（昭和40年通商産業省令第57号）に準じて作成している。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（2019年4月1日から2019年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けている。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
資産の部		
固定資産	4,864,800	4,835,966
電気事業固定資産	4,268,361	4,233,837
送電設備	1,508,212	1,486,716
変電設備	644,281	641,014
配電設備	2,024,853	2,016,109
業務設備	76,576	75,845
その他の電気事業固定資産	14,436	14,152
その他の固定資産	37,993	38,950
固定資産仮勘定	142,801	147,189
建設仮勘定及び除却仮勘定	142,801	147,189
投資その他の資産	415,644	415,988
長期投資	57,909	58,294
退職給付に係る資産	75,730	76,609
繰延税金資産	87,842	84,433
その他	196,368	198,865
貸倒引当金（貸方）	△2,206	△2,215
流動資産	700,951	667,130
現金及び預金	18,600	13,184
受取手形及び売掛金	172,865	153,053
たな卸資産	28,372	30,362
関係会社短期債権	412,927	384,470
その他	68,977	86,847
貸倒引当金（貸方）	△792	△788
合計	5,565,751	5,503,096
負債及び純資産の部		
固定負債	1,948,590	1,956,709
社債	1,483,661	1,498,072
退職給付に係る負債	198,294	194,784
その他	266,634	263,852
流動負債	2,555,789	2,541,247
1年以内に期限到来の固定負債	558,061	575,952
短期借入金	1,362,987	1,369,659
支払手形及び買掛金	33,383	32,793
未払税金	63,600	62,138
関係会社短期債務	294,827	272,329
その他	242,930	228,376
負債合計	4,504,380	4,497,957
株主資本	1,052,285	997,418
資本金	80,000	80,000
資本剰余金	700,658	700,658
利益剰余金	271,626	216,760
その他の包括利益累計額	7,196	5,811
その他有価証券評価差額金	7,343	6,422
土地再評価差額金	△2,365	△2,365
為替換算調整勘定	△3	△3
退職給付に係る調整累計額	2,220	1,757
非支配株主持分	1,890	1,909
純資産合計	1,061,371	1,005,138
合計	5,565,751	5,503,096

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (2018年4月1日から 2018年6月30日まで)	当第1四半期連結累計期間 (2019年4月1日から 2019年6月30日まで)
営業収益	393,059	412,318
電気事業営業収益	383,223	400,135
その他事業営業収益	9,836	12,182
営業費用	347,835	364,239
電気事業営業費用	339,398	353,970
その他事業営業費用	8,437	10,268
営業利益	45,224	48,078
営業外収益	3,622	3,788
受取配当金	2	0
受取利息	231	620
持分法による投資利益	2,348	2,345
その他	1,039	822
営業外費用	10,064	9,249
支払利息	9,451	8,565
その他	612	684
四半期経常収益合計	396,682	416,106
四半期経常費用合計	357,899	373,489
経常利益	38,782	42,617
税金等調整前四半期純利益	38,782	42,617
法人税、住民税及び事業税	742	8,257
法人税等調整額	4,936	3,589
法人税等合計	5,679	11,846
四半期純利益	33,103	30,770
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△19	19
親会社株主に帰属する四半期純利益	33,122	30,751

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (2018年4月1日から 2018年6月30日まで)	当第1四半期連結累計期間 (2019年4月1日から 2019年6月30日まで)
四半期純利益	33,103	30,770
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	0	△4
退職給付に係る調整額	△697	△441
持分法適用会社に対する持分相当額	565	△938
その他の包括利益合計	△131	△1,385
四半期包括利益	32,971	29,385
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	32,991	29,366
非支配株主に係る四半期包括利益	△19	19

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1. 偶発債務

保証債務

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
イ 東京電力ホールディングス株式会社の 金融機関からの借入金等に対する保証債務	987,353百万円	973,713百万円
ロ 従業員の持ち家財形融資等による金融 機関からの借入金に対する保証債務 (うち、当社以外にも連帯保証人がいる 保証債務)	77,103 (75,893)	75,189 (74,012)
計	1,064,456	1,048,903

2. 財務制限条項

前連結会計年度 (2019年3月31日)

当社の借入金の一部には、当社の財政状態、経営成績に係る財務制限条項が付されている。

当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)

当社の借入金の一部には、当社の財政状態、経営成績に係る財務制限条項が付されている。

(四半期連結損益計算書関係)

1. 季節的変動

前第1四半期連結累計期間 (2018年4月1日から2018年6月30日まで) 及び当第1四半期連結累計期間 (2019年4月1日から2019年6月30日まで)

送配電に関する電気事業については、売上高において当社供給区域需要を四半期ごとに比較すると、冷暖房需要によって増加する第2四半期・第4四半期と比べて、第1四半期・第3四半期は相対的に低水準となる特徴がある。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成していない。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費 (のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。) は、次のとおりである。

	前第1四半期連結累計期間 (2018年4月1日から 2018年6月30日まで)	当第1四半期連結累計期間 (2019年4月1日から 2019年6月30日まで)
減価償却費	72,898百万円	71,615百万円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(2018年4月1日から2018年6月30日まで)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年6月27日 定時株主総会	普通株式	57,783	1,239.99	2018年3月31日	2018年6月28日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年6月30日まで)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月26日 定時株主総会	普通株式	85,618	1,837.31	2019年3月31日	2019年6月27日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(2018年4月1日から2018年6月30日まで)及び当第1四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年6月30日まで)

当社グループは、単一セグメントであるため、記載を省略している。

(1株当たり情報)

	前第1四半期連結累計期間 (2018年4月1日から 2018年6月30日まで)	当第1四半期連結累計期間 (2019年4月1日から 2019年6月30日まで)
1株当たり四半期純利益	710円79銭	659円91銭
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	707円68銭	656円68銭

(注) 1. 1株当たり四半期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりである。

	前第1四半期連結累計期間 (2018年4月1日から 2018年6月30日まで)	当第1四半期連結累計期間 (2019年4月1日から 2019年6月30日まで)
親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	33,122	30,751
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	33,122	30,751
普通株式の期中平均株式数(株)	46,600,100	46,600,100

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりである。

	前第1四半期連結累計期間 (2018年4月1日から 2018年6月30日まで)	当第1四半期連結累計期間 (2019年4月1日から 2019年6月30日まで)
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(百万円)	△144	△150
(うち持分法適用関連会社の潜在株式による調整額(百万円))	(△144)	(△150)
普通株式増加数(株)	—	—

2【その他】

該当事項なし。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項なし。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年8月9日

東京電力パワーグリッド株式会社

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 春日 淳志 印
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 清水 幹雄 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている東京電力パワーグリッド株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2019年4月1日から2019年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、東京電力パワーグリッド株式会社及び連結子会社の2019年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. X B R Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。